

## 会議記録

会 議 名	令和6年度（2024年度）第3回八王子市博物館協議会	
開 催 日 時	令和7年（2025年）2月13日（木）午後6時00分～午後8時20分	
開 催 場 所	コニカミノルタサイエンスドーム（八王子市こども科学館）2階・講座室	
出席者	委 員 員	大森映子、長田晶、鎌倉佐保、國方則和、進藤哲央、中島美恵、馬場憲一、深澤靖幸（敬称略・50音順）
	事 務 局	叶清文化財課長兼郷土資料館長、飯塚由則こども科学館長、鈴木正生文化財課課長補佐兼主査、高野淳文化財課課長補佐兼主査、石田勇次こども科学館主査、清水雅生こども科学館主査
欠 席 者	（委 員）大畑静佳、菊池由紀子 （事務局）なし	
議 題	(1) 令和6年度（2024年度）八王子市こども科学館及び郷土資料館事業（4～12月期）実施状況について (2) その他	
公開・非公開の別	公開	
傍 聴 人 の 数	0名	
配 付 資 料 等	1. 会議次第 2. 【資料1】 令和6年度（2024年度）こども科学館事業（4～12月期）実施状況 3. 【資料2】 令和6年度（2024年度）郷土資料館事業（4～12月期）実施状況 4. プラネタリウムの更新とこども科学館の今後の方向性について（ご意見のお願い） 5. 歴史・郷土ミュージアムの整備状況について（報告） 6. その他（チラシ類等）	

<p>会議の内容 (要点記録)</p>	<p><b>【開会】</b></p> <p>(事務局職員による開会の宣言)</p> <p>事務局 会議の議長は、八王子市博物館協会条例第5条第1項の規定により会長と定められておりますので、以降は鎌倉会長に進行をお願いします。</p> <p>鎌倉会長 現在7名ですが、恐らくあと1名出席で8人となりますので、八王子市博物館協議会条例第5条第2項の規定により、会議は成立しております。</p> <p><b>【議題】</b></p> <p>1. 令和6年度(2024年度)こども科学館及び郷土資料館事業(4～12月期)実施状況</p> <p>鎌倉会長 最初に議題(1)について、事務局から説明願います。</p> <p style="text-align: center;">— 事務局職員による説明 —</p> <p>鎌倉会長 御質問や御意見はいかがでしょうか。</p> <p>事務局 長田委員、シルク展が過去最高の参加者という説明がありました。ぜひコメントをいただけますでしょうか。</p> <p>長田委員 今回はちはくからお話をいただき、3回テーマで高齢者向けのイベントを開催しました。三都祭と日付を合わせたので、用意したものはほぼ全てなくなるぐらい盛況で、2回目、3回目も60人超の方に来ていただき、無事終わりました。1人の方がどんどん呼んで博物館という場所に今まで来たことがない方が結構来てくださり、今後も継続してやってくださいというご意見が結構出ました。体験をしたいという声も結構ありましたので、博物館として、そういう流れを考えていくのもいいのかなと思いました。</p> <p>鎌倉会長 ロコミで結構人が集まってきたという感じなのですか。</p> <p>長田委員 最初、高齢者あんしん相談センターで、はちはくに近い3カ所だけに情報を流したのです。どのくらい来るかわからないということでしたので。最後は全部のセンターにチラシを配ったのですけれど、意外と遠くの方も来ていただきました。広報はせず宣伝だけでも、あれだけ来るんだなという感じです。</p> <p>鎌倉会長 どうもありがとうございました。皆様からはいかがでしょうか。</p> <p>國方副会長 こども科学館では、12月までの時点で、イベントの合計</p>
-------------------------	---

が前年比減っているというところですね。まだ3月まであるのでどうなるかですが、イベントの種類でいうと、毎年やられているものと、数年ごとにやられているものがあり、12月時点では、まだそういうものがなさそうな感じがです。今年度は、これから企画されているのか分からないですけれども、もし企画がないのだとしたら、それは、どういったところに要因があるのかですね。意図的にそうしているのか。例えばリソース不足、人員が足りなくて、そうってしまったのか、あるいはイベントと工作教室のバランスを考慮したものなのか。トータルで見たら増えているのですが、その辺が意図的なのか、やむを得ずそうになっているのか、それが今後どういうふうに変わっていくのか教えてほしいと思いました。

事務局

実績を見ますと、入館無料イベントが1,397人減って、大きい2番目のイベント等も305人減っているという状況ですが、イベント数は逆に昨年度より増え、特に今年度はいろいろなところとの連携イベントが増えています。昨年度は連携イベントが7つあったのですが、今年は予定を含めて13あります。ただ、一つ一つのイベントが、大人数を対象としているものではないところで少なくなってしまうと思います。

そのほか、星空コンサート、星空観望会も無料イベントに入っているのですが、星空観望会は、以前は来るお客さんを全て受け入れていたのです。そうすると、百数十名もお客さんが来ると、屋上で危険だということで、今年度は60名に制限し、よりきめ細やかに、教えながら進めるというところもあるので、そういった影響もあるかと思います。ただ、全般的には、昨年度よりイベント数は増やしているので、その要因をもう少し細かいところまで数字を見ながら、今後、分析したいと思います。

國方副会長

資料4ページに並んでいるのを見たときに、5ページにイベント等とあって、ここの種類に着目したのです。ここだけ見ると、自主企画でやっているのか分からないのだけれども、過去と比べると種類が減っているように見えるということです。どういう要因で種類が減ってしまったのか。意図的にそうになっているのか。外部連携のイベント数が増えているということで、それがこの書類上のどこに出ているのか分からなくて。もしかしたら講座のところに含まれているのかもしれませんが。

企画数がかくんと減っているのではなくて、逆に増えてい

	<p>ることは、これは喜ばしいことです。私が言ったのは、例えば自分たちがやろうとしているものに対してリソースが足りなくて、本数が減ってしまっているのだとしたら、何か手を打たないといけないのではないかと。逆に外部連携で増えたのなら、やり方が変わったということで喜ばしいことだと思うので、それは継続できるといいと思います。</p> <p>事務局      ありがとうございます。資料ももう少し分かりやすく表現できればよかったです。</p> <p>馬場委員      2点あるのですが、さっき話題になっていた4ページで気になったところがあります。スライドを見せていただいたのは、ずいぶん来ているところと少ないところがありますよね。2日間だから300人、それから『こどもスペースラボ』、その一つ上の『大学生と一緒にきれいな虹色プレートを作ろう』というのは159人と多いです。その間のは44人で、何かここだけ興味関心があるからなのか分からないけれども、2日間で306人だと非常に多い感じがします。これは広報に力を入れたとか、何かあるのでしょうか。</p> <p>事務局      広報はいずれも同様に、催しものの案内を学校に配ったり、ホームページや市の広報、SNSを使っています。『こどもスペースラボ』は創価大学と連携したもので、レゴブロックを使っていろいろなものをつくってもらったり、クイズをしたりというもので、2日間でかなり来ていただきました。その上のJAMSTECと連携したイベントは、もともと定員が何名と決まった、ちょっと難しい講座です。今回は定員よりもかなり少ない状態ではあったのですが、その辺りの理由もあるかと。子供向けで来た人をどんどん受け入れてやっていただくというようなものと、少し大人向けで定員がきちんと決まっているものとの違いもあるかと思っています。</p> <p>馬場委員      広報関係は基本的には同じだし、定員がないようなものもあるし、少ないのもあるということですね。ここに来る人は、八王子は非常に広く、以前、大森先生も質問されていたけれども、市域の全体から来ているのですか。</p> <p>事務局      市内、市外はわかりますが、市の中で、例えば中央地域、南西部、東部だったりというところまでは分かりません。</p> <p>馬場委員      市の施設として、どういう地域の人が利用しているかを調べたほうがいいのかなと思いました。</p> <p>                  郷土資料館の7ページ、先ほど話題になったシルク展のことです。815人来ていますが、これについては、来ている地域を把握されているのですか。</p>
--	--

事務局	アンケートを取っており、市内、市外までは分かります。
馬場委員	市内のどこから来ているというのは取っていない。先ほど人への呼び込みと言った話もあるけれども、通常の広報でこういうのをやりますというお知らせはしているのですか。
事務局	通常の広報をしました。もともと東京シルク展は毎年開催されていて、今回はちはくに場所を移してということで、もともと興味がある方が多かったというのが一番の要因かと思います。
事務局	長田委員の目から見て、別の会場でこれまでやってきたときと、今回の入りとで何か違いはありますか。
長田委員	東京シルク展は2年に1回なのですけれども、もともと顧客がついているというか、興味のある方がいらっしゃいますので、相当広い範囲から来ていました。
馬場委員	広いというのは、市内ではなくて、もっと地域を超えて。
長田委員	はい。横浜や群馬のほうから。客の認知度が違うので。先ほどのスペースラボは、レゴなので、もうポスターを見る時点で、レゴで遊べるという内容が相当子供の数が見込める。また、虹色プレートなども子供が好きなので、大学生と遊ぼうのイベントはすごく並んでいました。学校にチラシが配られますので、その時点で子供の興味が全然違うのだと思います。
馬場委員	小学校で配られるのですか。
長田委員	そうです。レゴは最後までやっていましたけれども、すごく混んでいました。
馬場委員	新しい博物館でも、そういったように小学校で配るものなどを考えたほうが良いですね。
中島委員	資料1の8ページ、6の③放課後子ども教室（出張体験講座）の10月2日、由井第三小学校とあるのですが、どういうことをやられるのですか。
事務局	こちらは、科学指導員が小学校へ行って、そこで工作をやっているものです。
中島委員	これは、依頼すれば、そういうこともしていただけるということですか。放課後の子供の居場所づくりで、外で校庭開放を毎日やっているのですが、たまに屋内でそういったことを企画したりしているのですが、ぜひ、こういうルートで頼めばできるということを教えていただければ、宣伝できますので、よろしくお願いします。
事務局	今回は1件と少なかったですけれども、去年は七、八件ありました。コーディネーターの方を通して連絡をいただ

	<p>ければ対応できます。来年度に関しては、どういう形か分からないですけれども、続けていきたいと考えています。</p>
馬場委員	<p>郷土資料館の2ページですが、出前講座をやっていますよね。タイトルが書いてあって、これは映画みたいなものを上映するのですか。映画をつくっていますよね。</p>
事務局	<p>そうです。概ね1時間ほどの講座になるのですが、そのうち30分、40分ぐらい、映像を御覧いただいています。その映像の補足説明をしたり、質問にお答えしたりというような内容になっております。</p>
馬場委員	<p>説明は学芸員の方がするのですか。</p>
事務局	<p>はい。学芸員が対応しています。</p>
馬場委員	<p>先ほどの報告だと、割とシニア層のところに行きますよね。そこで、そういうのばかりみたいなニュアンスを受けたのですが、出前はいい試みだと思うのだけれども、ほかのところを開拓するうごきはないのですか。基本的には、デイサービスなどシニア層が対象になると思いますが、こういった傾向が続いているのですか。</p>
事務局	<p>広く募集はしているのですが、こういった会場が多いです。もう少しいろいろな年齢の方に興味を持っていただけるような周知が必要と思います。</p>
馬場委員	<p>なかなか難しいのでしょうか。せっかくやっているのもっと広げられるといいと思います。</p>
大森委員	<p>こういったプラネタリウムを上映されているときに、投影日数や1日当たり人数を、かなり具体的に出していただいています。多いときはどのくらいになるのか。あるいは少ないときはどの程度なのかが、あまりよく見えない気がします。多いときはどのくらいになるものなのか、教えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>去年の夏から投影している『ドラえもん』の番組がかなり好評で、ほぼ満席になる日もあります。それは夏休みだけではなくて、この前の日曜日にも満席になりました。</p>
大森委員	<p>平均してしまうとこういう数字になりますけれども、多いときというのは、それこそ200人くらい入ってしまうという形なのですね。</p>
事務局	<p>特に『ドラえもん』は平日も投影していますが、『ドラえもん』でも平日午後は少ないので、毎日投影している番組と、土日だけしか投影していない番組とを同じ土俵で比べると、ちょっと違ってしまふということはありません。</p>
大森委員	<p>その辺がもう少し見えてくると、これからの対策、そういったところが出てくるかと思っています。</p>

	<p>深澤委員 府中の話題を出していただきました。はちはくの7ページですね。企画展『窯がつくる暮らし』ということで、私がおります府中市郷土の森博物館と連携、協力した事業です。ありがとうございました。八王子市教育委員会の村山さんから、何年か前、資料を借りに行ったときだったか、お返しに伺ったときだったか、私と私の下にいる若い学芸員と一緒にいたときに、連携のお誘いをいただきました。今も、うちの博物館では、その連携企画で3月9日まで、資料をお借りして展示させていただいているところです。</p> <p>私は、博物館同士の協働が非常に大切だと、若いときからずっと思っています。今のはちはくの中では、やれることは確かに限られていると思います。新館オープンの暁には、三多摩地域の博物館連携だけではなく、もっと大きな規模も含めて、いろいろな連携を模索されるのがいいと思います。</p> <p>鎌倉会長 どちらでもいろいろな連携をされていて、それがかなり好評で、新たな集客も期待できる場所ですね。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。よろしければ、議題（1）については、これで終了とさせていただきます。</p> <p>2.その他</p> <p>鎌倉会長 それでは議題（2）では、意見聴取をお願いする案件があると思いますので、事務局から順にお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラネタリウムの更新とこども科学館の今後の方向性について</li> <li>・歴史・郷土ミュージアムの整備状況について</li> </ul> <p>事務局 一つ目が、こども科学館からですけれども、プラネタリウムの更新とこども科学館の今後の方向性について（ご意見のお願い）という資料をごらんください。こちらの内容は、まだ市の内部で検討段階ですので、この部分は、議事録は非公開で御意見お願いしたいのですが、会長、それでよろしいでしょうか。</p> <p>鎌倉会長 はい。では議事録では非公開とします。</p> <p style="text-align: center;">（非公開部分）</p>
--	--

鎌倉会長     それでは、もう一つ、歴史・郷土ミュージアムの整備状況について、事務局からお願いします。

－ 事務局説明 －

鎌倉会長     皆様から質問等はございますでしょうか。

大森委員     現在のはちはくはどのようなになるのでしょうか。

事務局       まだ市で政策決定して、どうするかという結論は出していません。ただ、数千万単位の運営経費かかっていますので、サテライトとして残すものかどうか、経営の観点から判断をせざるを得ないと思っています。

大森委員     郷土資料館の入館者数の推移等々を見せていただくと、はちはくの立地条件というのは、非常に大きな影響を持っていると思うのです。ですから、同じような形にすべきかどうかは別としても、以前も話題になったことあるかと思うのですが、あの場所を一つの拠点として、そこから人が動いていけるような形で残すことを、ぜひ考えていただけたらと思います。こども科学館がこちらにあるのなら、こちらに振り分けていくような、センター的なものが置けたらいいな、という感想です。

鎌倉会長     他によろしければ、これで本日の議題は全て終了し、令和6年度第3回八王子市博物館協議会を閉会いたします。

【閉会】